

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	伊万里市立大川小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<p>「元気いっぱい」 ①健康なからだづくりを意識して取り組む児童の育成について、一定の成果が見られたものの、元気な挨拶や返事については課題が残った。</p> <p>「やさしさいっぱい」 ②人権学習、花いっぱい運動、「心の教育3点セット」の活用等による豊かな心の育成に取り組んだ。定期的な「こころのアンケート」の実施「心の教育3点セット」活用により、学校が楽しいと回答する児童は、80%を超えた。一方、学校が楽しくないと回答する児童もいることから、安心して過ごせる学級経営や交流活動のあり方に課題が残った。</p> <p>「知恵いっぱい」 ③小中連携による学力向上の推進について、「授業づくりのステップ1, 2, 3」を各学年共通実践し、学力向上対策シートの共通実践事項を全職員で行い、授業力向上を図ることができた。今後、学習状況調査やCRT学力調査の分析を行い、児童につけたい力を明らかにしながら、PDCAサイクルの授業づくりを行いたい。</p>
------------------	--

2 学校教育目標	「元気いっぱい、やさしさいっぱい、知恵いっぱい」の児童の育成
----------	--------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>「元気いっぱい」 ①健康なからだづくりを意識し、粘り強く取り組む児童の育成・効果的な保健指導・「元気なあいさつ」</p> <p>「やさしさいっぱい」 ②大川町や大川小学校を誇りに思う児童の育成、思いやりのある言葉かけができる児童の育成、「心の教育3点セット」（道徳教育・人権学習・花いっぱい運動）の活用等による豊かな心の育成</p> <p>・安心して過ごせる学級経営及び当たり前の生活ができる喜びを意識できる心の教育・同学年及び異学年による様々な交流</p> <p>「知恵いっぱい」 ③互いに聞き合える対話活動を中心に据えた学力向上・学習形態の工夫・タブレット端末利活用による授業の工夫・家庭との連携による学習習慣の定着</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)							
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・西部型授業や「授業づくりのステップ1,2,3」をもとに、全校で統一した学習過程で算数科授業を実践する。						
	○充実した「ふりかえり」ができる授業の実践	○教師は、西部型授業や「授業づくりのステップ1,2,3」に基づく、授業研究の研修を年2回以上行う。	・教師は西部型授業や「授業づくりのステップ1,2,3」による授業実践を行う。 ・児童の授業後の「ふりかえり」を充実させる。						
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○廊下は右側を歩き、元気な挨拶や返事をする児童の割合が80%以上。	・「伊万里っ子しぐさ」をもとに生活目標を作成し、月1回、全校集会等で話をする。						
	●人権・同和教育の充実といじめの早期発見、早期対応体制の充実	○こころのアンケートで「学校が楽しい」と答える児童の割合が85%以上。	・こころのアンケート等を毎月実施し、児童の心の状態や人間関係の様子を詳細に把握する。 ・全職員で年度初めと毎月1回、児童について共通理解を図る時間を確保する。						
	○QUテストを生かした学級経営により、学校が楽しいと答える児童85%以上 ○共通教材の実践、部落差別を解消するための学習の確実な実施。	○QUテストの分析を行い、互いの違いを認め合い、おもいやりのある学級づくりを行う。 ・人権の意味や大切さに触れさせる機会を設ける。							
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で180分以上の児童90%以上	①昼休みの外遊びを奨励し、多くの児童と複数の職員が関わりながら過ごすようにする。						
	②望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	②朝食の喫食率児童95%以上。	②朝食アンケートを年に2回行い、保護者へ啓発していく。						
	○運動習慣をめざした授業づくり	○「体育指導者ハンドブック」の職員による活用率90%以上。	・ハンドブックを使った授業実践を紹介するなど、活用を促す。						
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外在校等時間の上限(1か月45時間)以上が年間6か月を超えないようにする。守ることができたと回答する職員を80%以上にする。	・定時退勤日を金曜日に設定する。 ・退勤目標時刻から逆算し、放課後の時間を優先順位をつけて効率的に使い、業務にあたることを意識する。						
	○行事、会議の精選	○職員会議や研修等にかかる上限時間を80分とし、遵守する。 ○各部会から1つ以上の改善案を提言する。	・事前資料配付、電子掲示板等を活用し、提案の簡略化を図る。 ・3部会で削減の視点で話し合い、「例年通り」を改善する。						

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)							
○特別支援教育の充実	○ケース会議を含めた支援体制の整備 ○通常学級在籍児童への支援	○特性を持った児童や個別に支援が必要な児童を職員間で確実に共通理解する。	・意欲的に学習するよう、個々の児童の特性に合わせた支援を行う。ICT活用も図る。 ・特別支援教育啓発を図るとともに、就学支援対応は、特別支援教育コーディネーターを中心に計画的に実施する。						

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------